



岡山市 男女共同参画情報誌

DUO

2018

Vol.
43

♪「デュオ」は英語で二重唱（奏）の意味です。



特集2
インタビュー

特集1
寄稿

導入企業に聞く
「孫育て休暇制度」

「なぜ今、働き方改革が
必要なのか」
企業の実践例にみる

働き方改革

当社はレディースアパレルブランドを中心に事業を展開する企業で、日本全国に約900の店舗があります。創業から23年で1200億円規模のグループに成長しました。当社事業を支える社員の9割以上は女性です。現在は、産休・育休を取得して復帰する人も珍しくなく、社員の約15%が時短勤務を活用しながら仕事を続けています。残業も少なく、働きやすい企業だという印象が浸透し、業界紙で「アパレル業界で学生が就職したい企業1位」にも選んでいただきました。

モーレッツ文化

そんな当社ですが、以前は現在のようないな「働きやすい企業」と呼べる環境ではありませんでした。1994年に創業し、1999年に現在の主力ブランドである「earth music&ecology」が

誕生。ご記憶にある方もいらっしゃると思いますが、2010年に女優の宮崎あおいさんを起用したテレビCMを実施したことで、一気に認知度が向上しました。ちょうどその前後である2009年〜2011年頃に、店舗数と売上高も飛躍的に伸長したのです。急速な事業拡大下の社内は「モーレッツ文化」で、皆遅くまで残業するのは当たり前でした。

しばらくそのような状況が続く中、「このままでは会社がもたない」と気が付きました。当時は離職率も今よりずっと高かったのですが、当然です。例えば小さな子供を育てている人は、毎日遅くまで仕事をするのは難しい。残業ばかりで趣味や家族、友人との時間がなくなれば、生活は楽しくなくなる。働く環境を整えなければ、事業を支える社員も離れて行ってしまうと考えたのです。

短時間正社員制度

2011年頃から、順次制度や環境を整えていきました。4時間、6時間という勤務形態で正社員雇用をする「短時間正社員制度」を導入。新たな働き方を提案すると共に、急速に増加する店舗の要員確保を図りました。もちろん、産休・育休の積極的な取得も推進。子供の行事等で月に1度休暇を取得できる「キッズ休暇」や育児支援金の実施など、制度は充実していきました。男性にも家事や育児に積極的に参加してもらうため「イクメン推進休暇」制度も整え、10歳未満の子供がいる男性社員には月に1日の取得を義務づけています。

クォーターカット運動

制度整備とあわせて、業務内容の改善にも取り組んでいます。作業時間短縮を図るために、店舗では自動釣銭機や棚卸業務が短縮できるICタグを取り入れました。無駄な作業を減らすと「クォーターカット運動」を実施して、毎年25%ずつ事務作業も削減。本社・本部においても、会議を大幅に削減する、各部門の業務内容を見直すなどの対策を実施。さらに、終業時間後にフロアの一言消灯をすることで、定時退社を促進しています。数年前は19時に

～なぜ今、働き方改革が必要なのか

石川 康晴



プロフィール

(株) ストライブインターナショナル社長兼CEO。公益財団法人石川文化振興財団理事長。1995年 会社設立(当時の社名はクロスカンパニー)。2011年から6年間内閣府男女共同参画推進連携会議議員を歴任。企業家大賞などを受賞。岡山大卒。京都大大学院在学中。岡山市出身。47歳。

会社概要

本社は岡山市北区。アパレル衣料品の製造、販売など幅広く事業展開。2011年9月、中国に進出したのをはじめ、現在、国内外に約1400店舗を持つ。企業グループの売上高1200億円、従業員約4700人。

生産性の向上

「働き方改革」は、半分は社員のためのもので、半分は企業のためのもので、私は考えます。性別、年齢、国籍、家族構成の異なる多様な社員が活躍し、働き続けるために重要であることは明白です。しかし、それだけではなく、「生産性や収益の向上」という企業側のメリットも大いにあるのです。少子高齢化が進み人材確保が難しくなり、女性やシニア層、外国人など労働力の多様化が進む中で、全ての社員が働きやすい環境を作り、企業の財産である人材が活き活きと長く働けるための取り組みは、企業の存続と成長にとって不可欠です。

大きな差

日本の社会や多くの企業は、岐路に立たされています。もちろん事業を支える大切な社員のためにも、そして事業継続と成長のためにも、ぜひより多くの企業に働き方改革に取り組んでいただきたいと思っています。改革には時間を要し、進まない時期もあるかもしれませんが、それでも5年後、「働き方改革」に取り組んだ企業とそうでない企業には、大きな差が出ていると思っ

想定以上の効果

行っていた一言消灯ですが、現在は18時5分。基本的には、役員や管理職も含めて定時で仕事を終えて帰ります。

事業継続に危機感を感じたことがきっかけでスタートした当社の「働き方改革」ですが、想定以上の効果を生んでいると感じています。経験を積みスキルを備えたスタッフが継続的に働いてくれるというのはもちろんのこと、人手不足に悩む企業が多い小売業界において、新卒採用における応募人数が大幅に増加しました。また、時短勤務社員の人数が増えたことで、若い世代のロールモデルが社内に多数存在し、キャリアが描きやすくなっていることも事実です。さらに、終業後の自由な時間が増えたため、従業員同士で部活動を作ったり参加するなど社員間の交流機会も増え、コミュニケーションの活性化に繋がっていると感じています。当社は「関係の質」が「結果の質」に繋がると考えているので、従業員間の関係性が良くなることは、業務の質や結果にも良い影響をもたらすと思っています。スキルアップのための自己啓発を行う社員が増えたり、趣味や家族・友人との時間がしっかり確保でき、生活が充実したという社員も多いです。



◀終業後のライフスタイルセミナーに参加する社員

孫育て休暇制度 導入企業に聞く

働き手が減少し、人手不足、女性活躍、定年延長といった流れが加速する今、「孫育て休暇奨励金」制度に手を挙げ、孫育て休暇の創設に取り組んだ事業者のうち、二人の事業主と従業員の方に話を聞きました。



Q 孫育て休暇を制度化した経緯は

私自身子どもが3人おり、以前から共働き世帯における育児負担は相当なものではないかと感じていました。また、社員の退職理由に「孫をみないといけないから」という声もあり、核家族が進んでも、社員が働きながら自分の孫の世話もできる職場にしていこうという考えから制度化しました。弊社はおかやま子育て応援宣言企業に参加させていただいていることもあり、社員を含めた地域の子育て支援を進めていこうとも考えています。身内の方々が一人でもサポートしてくれることで各家庭の育児負担軽減につながり、良好な家族関係の中で、社員もより一層充実して働ける環境となったのではないかと考えています。

Q 利用実績や効果は

休暇は1日から取得可能で、上限は設けていません。取得者は3人（全て女性社員）で、計14日間。最長で11日取得した社員もいます。取得した社員はいずれも管理職です。制度導入が全てではないのですが、離職率の低下に効果が現れています。



Q 理想的な働き方や職場のあり方とは

経営者は社員がいかに充実して働けるか。つまりワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を第一に考えなければならぬと思っています。弊社は、社員の約半数が女性で、管理職に至っては約85%が女性です。このような中で、経営者自ら先頭に立って社員の育児等の課題解決に目を向けることは必須と考えています。

弊社は、休暇を取得しやすい社内風土づくりに力を入れている中で、ライフイベントのあった社員へ制度周知を図るなどの『制度の見える化』を徹底的に行ってきた結果、離職率が高いと言われた介護業界の中で、近年急激に離職率も下がってきています。社員に働き続けたいと思ってもらえる、終身雇用を考えた働き方ができる、そんな企業をめざしています。

編集を終えて ◆編集委員の感想◆

岡山の今を知る

今回の孫育て休暇の特集は、表紙からも伝わりませんが温かく優しい取り組みだと思います。今、岡山の企業が前進していく過程を伝え、岡山市民と企業との架け橋になれば幸いです。2年間DUOに携わることができてよかったです。岡山の今を知ることが出来ました。（清水 リカ）

小さな一歩

前回同様良い学びの場となりました。今回は「働き方改革」、特に「孫育て休暇」に注目です。まだまだ発展途上の印象は受けますが、この小さな一歩が将来大きなうねりとなり、誰もが働きやすい社会となる事を願っています。（安藤 優子）

人間性の回復

「猛烈社員」「企業戦士」という言葉が飛び交う時代を生き抜いてきた。年休の取得など考える余裕がなかったと思う。果たして人間性という面ではどうだったのか。今になって疑問にも感じる。現在、働き方改革が国民的テーマになりつつある。男女共同参画社会の実現という概念だけでなく、人間性の回復という視点においても真剣に取り組まねばならない課題であろう。（藤田 学）

社会を生きる

2年間にわたりDUO編集委員を務めさせて頂きました。三児の育児に追われた生活の中から初めて社会への一歩を踏み出すきっかけとなったのが、岡山市男女共同参画を学ぶ機会でした。「伝わる良い誌面」を目指し一緒に頑張ってきた編集委員の皆様、職員の皆様本当にありがとうございました。今後も引き続き様々な形で岡山市へ社会貢献していきたいと思えます。（水内 理恵子）



林社会保険労務士事務所

所長 林 光洋 さん

Q 孫育て休暇を制度化した経緯は

最初のきっかけは従業員の提案でした。私の所属する岡山県社会保険労務士会では、イクボスや子育て応援なども行っています。顧客に両立支援制度などを啓蒙する立場として、自ら実践することが必要だと思い、制度化しました。

Q 利用実績や効果は

就学前の孫がいる従業員が対象で、休暇は孫1人につき1回（1日）です。利用実績は今のところ1人。1日だけの有給休暇制度なので、効果を説明するのは難しいのですが、従業員の様々な家庭事情に対して経営者や管理職側が理解を示し、育児や介護など、時間に制約のある従業員にも働き続けられる職場づくりを進めてもらっているという安心感につながっていると思います。

Q 理想的な働き方や職場のあり方とは

時間に制約のある従業員に能力を最大限発揮してもらうためには、経営者や管理職側が従業員一人ひとりの事情に向き合い、お互いが気持ちよく働ける職場づくりをいかに進めていくかだと考えています。また、少子高齢社会の中で人材不足が深刻化しており、優秀な人材を確保していくためには、経営者は、それまでの働き方ができない事情が起きた時の従業員への対応策を真剣に考えておく必要があります。現在、私を含めて事務所員は8人ですが、子どもや孫の



取得を話し合っ決めて決めています。介護を始め、様々な予期しない事はだれにでも起こりうることです。職場では「お互い様」の意識を持つことも大切だと思います。

育児だけでなく、親の介護と仕事を両立しなければならぬ事も起きており、3年前前から、個々の事情に合わせた勤務形態を実現するため出勤日数を通常勤務の5分の4程度に調整できるようにしました。今後、クリアすべき課題もあります。在宅勤務（テレワーク）導入を検討中です。また、従業員が互いに理解し、尊重しあえるよう、毎月の定例会議で、計画的な休暇取得を話し合っ決めて決めています。介護を始め、様々な予期しない事はだれにでも起こりうることです。職場では「お互い様」の意識を持つことも大切だと思います。

取得者コメント

事務職 女性（57歳） 孫2人

ライフステージ（結婚・出産・育児・介護）に応じた働き方を応援できる職場をつくりたいと思っていました。岡山県の奨励金制度を知って、所長に提案し、自ら二人目の孫の出産時に上の孫の面倒をみるために休暇をとりました。

家庭・職場・地域といった社会全体として、いろいろな手助けがあれば、若い世代も出産・子育てをあきらめず、二人目、三人目と子どもを産み育てようという気持ちになると思っています。

取得者コメント

看護師 女性（66歳） 孫1人

私は、娘の出産後の手助けのためにこの休暇を取得しました。娘家族は県外に住んでいます。長期間の休暇を取得できたことで、とても感謝され、孫の成長と共に喜ぶことができる良い関係を築くきっかけになったと感じています。

最近共働きで育児をしている若い夫婦が多いうえ、その親も働いていることが多いかと思えます。親、祖父母が共に協力し合いながら育児を支えることは、これからの家族のあり方として必要なことだと考えています。

告知

岡山市男女共同参画推進週間

さんかくウィーク 2018

テーマ▶「笑顔咲き 個性が輝く さんかく社会」

オープニングイベント▶平成 30年 6月 10日(日) 記念イベント▶平成 30年 6月 24日(日)

毎年6月21日から27日までを「さんかくウィーク(男女共同参画推進週間)」と定め、前後1週間を含めた3週間の期間中、男女共同参画への理解を深めていただくためのさまざまな取組を行っています。

詳しくは平成30年5月上旬に、女性が輝くまちづくり推進課、さんかく岡山のホームページで告知。さらに、各区役所、公民館などにチラシを配布してお知らせします。

報告

岡山市男女共同参画推進週間

さんかくウィーク 2017



記念講演 (岡山市立市民文化ホール)

上野千鶴子さん講演会

●おかやま発 上野流「白熱教室」
- 百人百様の自分流が輝く社会へ 変えるときに必要なものとは -

オープニングイベント (さんかく岡山)

講演 ●「らしさ」からの解放!あなたを縛る「女らしさ」「男らしさ」とは・・・
対談 ●LGBT ~あなたの存在が「宝」

図書館行事

パパも一緒に! 赤ちゃん絵本読み聞かせ体験

公民館行事

おとうさんと子どもの料理教室 (ほか36講座)

市民協働事業

変わるお葬式 消えるお墓 ~葬送儀礼におけるジェンダー~ (ほか3講座)

男女共同参画社会の形成の促進に関する事業者表彰

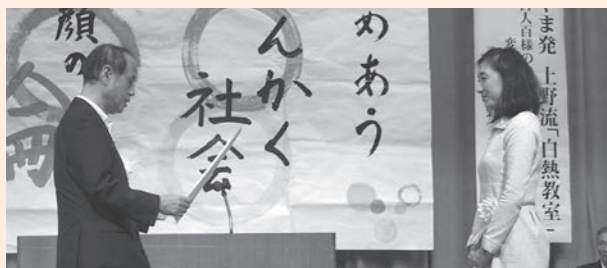
岡山市は雇用の分野における男女共同参画の形成の促進を図るために、積極的な取組を行っている事業者を表彰しています。

平成 29 年度
受賞事業者の
ご紹介

株式会社 岡山高島屋

代表取締役社長 山田 周二 氏

(表彰式は代理)



社員のワークライフバランスの実現を支援するため、スクールイベント休暇やワークライフバランス休暇など、多様な休暇制度を取り入れ、取得を義務化。半日でも取得できるようにするなど、制度が十分に活用されるよう取り組んでおられます。

また、育児休業後のスムーズな復職を支援するため、復職時には個別に面談する、復職後はメンター制度を活用するなど、きめ細かなサポートを行うとともに、男性社員の育児への参画を促進するため、有給で連続2週間以内で取得できる「育児休業」を整備し、対象者とその上司双方と面談し取得を働きかけるなど、男女が共に仕事と育児の両立ができるよう取組を進めていることを高く評価しました。

株式会社 イケル

代表取締役 山下 秀男 氏



社員の仕事と生活の調和実現のため、本人の希望に応じて勤務時間を選択できるパート制度や、短時間正社員制度、正社員への移行制度など、社員が意欲をもって働き続けることができるよう、多様で柔軟な制度を整備し、その制度が十分に活用されています。また、社員のキャリアアップを支援するためきめ細かにサポートするとともに、結婚・出産・介護など、一人ひとりのライフステージに応じて希望する働き方や生き方ができるよう、長時間労働のない働きやすい職場環境づくりを行い、勤務時間内に成果を挙げられる働き方に取り組んでいることを高く評価しました。



各事業についての詳細は女性が輝くまちづくり推進課ホームページをご覧ください。▶

岡山市の男女共同参画社会に向けた事業の紹介

あなたも参加しませんか

第4次さんかくプラン

(岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する基本計画)

男女共同参画社会の形成の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「第4次さんかくプラン」を策定しました。岡山市の男女共同参画事業は、このプランに基づいて行われています。



***** 女性の活躍を進める情報発信 *****

企業における女性活躍の重要性や活躍事例、経営戦略としての有効性をテーマとするシンポジウム、市内企業に勤める女性の仕事と家庭生活との両立に対する工夫や悩みなどを話し合う座談会を開催しています。

報告

◆シンポジウム◆ 「女性活躍推進、次のステージへ ~働き方改革を競争力強化につなげるために~」

女性活躍の推進や働き方改革の重要性について、企業などの認識は深まりつつあります。それを企業の業績向上にいかにつなげるかが新たな課題となっています。シンポジウムでは次のステージに向かうためには何が課題か、経営戦略は何かなどをパネリストらが意見交換し、企業関係者、市民のみなさんが理解を深めました。

- ▶ モデレーター 石塚由紀夫さん(日本経済新聞社編集委員)
- ▶ パネリスト 青野 慶久さん(サイボウズ株式会社代表取締役社長)
- 内田 良子さん(両備ホールディングス株式会社ワークライフバランス/ダイバーシティ推進チームリーダー)
- 村上由美子さん(OECD東京センター所長)



ワーク・ライフ・バランス啓発 及び企業紹介パンフレット

(平成 30 年 3 月下旬発行予定)

市内企業の女性活躍推進への取組の紹介や経営戦略としての女性活躍推進やワーク・ライフ・バランスの重要性・メリットについて紹介しています。



市内企業で働く女性活躍プログラム

市内企業で働く女性とその上司を対象として、女性が管理的立場で活躍することを学ぶ講座を開催しています。



男性管理職セミナー



経営者や管理職を対象として、業績の向上と生活の調和を実現するためのセミナーを開催しています。

女性の再就職支援講座

ライフステージの変化により離職した女性の再就職を支援する講座を開催しています。



岡山市男女共同参画社会推進センター

さんかく岡山を利用しよう!



「さんかく岡山」は、年齢や性別を問わず、どなたでもご利用いただけます。岡山市の男女共同参画を推進するための活動拠点であり、様々な講座やイベントも開催しています。お気軽にお立ち寄りください。

講座・イベント等のさんかく岡山の施設情報はこちらから▶



会議室
(有料・要予約)
最大100人までご利用いただけます。



ミーティングルーム
(無料・要予約)
3人以上のグループで3時間まで利用できます。グループでの自主学習などにぜひどうぞ。



展示ギャラリー
(無料・要予約)
市民のみなさんへ作品を発表できる場を無料で提供しています。



図書
1回5冊まで。
貸出期間は2週間です。



託児室 (有料・予約制)
生後6か月～就学前のお子さんを3時間までお預かりします。買い物などの際にもご利用いただけます。

さんかく岡山の事業

男女共同参画社会を目指す人材の養成や、企業での女性活躍を目的とした講座、子ども向けの体験プログラム、イベントなどを開催しています。



ジェンダー絵手紙教室
(H29)



**未来のリケジョ
応援プロジェクト**
(H29)

「さんかく岡山」 団体・グループ登録制度のご案内

7つの登録特典

男女共同参画社会の実現をめざして活動する市民団体・グループが、より便利にさんかく岡山を活用できる団体・グループの登録制度もあります。

- ① 会議室使用料の減額
- ② 会議室利用申請が7か月前から可能
- ③ ミーティングルーム利用申請が3か月前から可能
- ④ 各種講座案内等の情報提供
- ⑤ 情報コーナーの利用
- ⑥ 印刷機の利用
- ⑦ メールボックスの利用 (多数の場合は抽選)

住所 〒700-0822
岡山市北区表町三丁目14-1-201号
(アークスクエア表町2階)

電話 086-803-3355 **FAX** 086-803-3344

電子メール sankaku@city.okayama.lg.jp

ホームページ http://www.city.okayama.jp/shimin/danjo/danjo_00050.html

開館時間 月・水～土/9:30～20:00
日・祝/9:30～17:00

休館日 火曜日、年末年始(火曜日が祝日の場合は開館し、次の平日が休館となります。)



● この情報誌は、岡山市と市民公募の編集委員が協働で企画・編集を行いました。 ●